

まちへ飛び出し、自分だけの学び体験を

奈良・宇陀市をフィールドに、地域経営について学びを深めています。これまで学生たちは、ふるさと納税返礼品のためのたけのこ掘りや地域の人たちが大切に育てている薬草園のメンテナンスなどの活動に参加し、宇陀市に暮らすさまざまな人たちに会ってお話を伺ってきました。

その一環として、ゼミ(演習Ⅱ)の学生たちが、宇陀市の特産物・ダリアの花を歴史ある街の道に敷きつめる「宇陀松山華小路」というイベントに参加しました。地域のみなさんが協力し合いながら運営し、楽しんでいる姿を見て、学生たちは多くを感じとったようです。

こういったフィールドワークで、学生には先入観を持たずに未知の世界に飛び込み、学びのボタンを自分で見つけてほしいと願っています。私は場やきっかけを提供するだけで、細かな指示や誘導はしません。自ら課題や疑問を見出し、多様な人との話し合いや調査分析、発信を繰り返しながら、解き明かしていくプロセスこそが真の学びです。自発的な思考や体験の積み重ねが、自信と喜び、そして新たな課題の発見につながります。



地域の活動に参加する時のポイントは、そこに暮らす方々が主役だという視点です。そして、「地域貢献」などと気負い過ぎず、コミュニケーションや素直に感じたことを大切に。多様な価値観を持つ人が協働するまちづくりの最前線を体感しましょう。

社会学部 総合社会学科
専門分野 / 社会心理学・地域ブランド戦略
中原 洪二郎 教授 NAKAHARA Kojiro

総合社会学科

実社会で
感じる



「宇陀松山華小路」のイベントの準備に参加して、地域の人々とのコミュニケーションを深める。

総合社会学科のフィールド・アクティビティ

- ケーブルテレビで放送される番組づくり
- 地域の子どもたちを対象としたデザインワークショップの運営
- 知的障害のある人々とのスポーツ活動の推進
- 奈良のお土産や特産品の開発と活用
- 商店街の活性化活動への協力
- それぞれのゼミの特徴を活かした学外研修